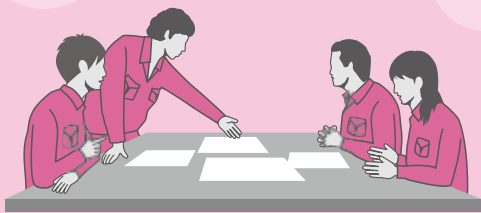


# 小集団 活動で

## 職場活性化



住友重機械マリンエンジニアリング(株)  
製造本部 主管(安全担当)

児玉 猛

第5回

## 相互注意

小さい仕組みで  
大きな成果を

この連載も今月で5回目になりました。第1回の原稿の中で、小集団活動を積み上げて職場の安全を築き上げる目標を、

〈安全文化のものさし〉

H 一人KY

S 相互注意

A ありがとう

で測ろうと提案しました。

前回まで述べてきたとおり、毎日の作業の中で「一人KY(危険予知)」を、指差し呼称で確実にする」。この活動は一番大切なことですが、小さな集団の中では、「相互注意」が自然体でできること、

これが目の前のリスクを確実に小さくできる簡便で確実なツールです。先輩から後輩へ、後輩から先輩へ声を掛けて危険に気付かせる。こんなシンプルで確実な方法はほかにはありません。

造船業界には、「相互注意」を造船界なりに的確に表現した

**みんなで守ろう、仲間の命!!**

という合言葉があります(写真1)。リスクの大きい造船業界ですから、少し過



写真1 相互注意の例

激な表現になってしまっていますが、これも事業所の枠を超えた相互注意です。

また外国には、「相互注意」の一つの方法に、SWA (Stop Work Authority)、つまり「作業停止権限」という考え方があります。職場の仲間ばかりではなく、第三者の検査官やお客様にも、作業者の行動が危険と感じたら、作業を止める権限を与えるというものです。日本では、まだなじみの薄い仕組みですが、世界ではこれが潮流になってきています。

さて、皆さんの職場で行われている「相互注意」にも、優しい相互注意からキツイ相互注意まで種々の注意があると思います。小さな集団の中で「おいおい、そんなやり方ではケガするぞ!」「そこは、もつと整理・整頓してから仕事を始めよう!」「といった優しいものから、「危ない! やめろ!」という厳しい言い方まで、いろいろとあります。注意を受ける作業者も人間ですから、言われたこ



経験の浅い作業者の区別を付けて、積極的に声を掛けています。

写真2 保護帽の色で判別

これらの活動を効果的に行うためのアイデアを紹介します。当社の工場では、造船の作業経験が3年に満たない作業者には、黄色い保護帽（写真2）を着用してもらいます。まさに、ひよつ子の色で

未熟な作業者と  
外国人労働者には

とにカチンとくるときもあるでしょう。しかし、普段から、現場で会話を重ねている仲間ではカチンとくることはないはず。当社で取り組んでいる「声かけパトロール」（第4回参照）も、ここを大切にしています。

あいさつ、声掛けから

これらの未熟な作業者相手では「相互」という関係には程遠いですが、近い将来には、彼らの方からも声がかかることを期待しています。

「相互注意」も、気を付けないと悪く取られることがまます。しかし、普段から、「ご安全に！」のあいさつに始まり、声掛けを重ねていけば、相互注

す。

これは、「ひよつ子色の作業者には進

んで声を掛けましょう」という目印です。また、近年、造船現場が増えてきた外国人労働者にも、オレンジ色の保護帽を着用させています。オレンジ色の作業者を見たら、進んで作業を観察し、声を掛けます。



写真3 中災防ポスターから

意は確実に職場のリスクを軽減してくれます。

最近の中央労働災害防止協会のカタログに、写真3のポスターが載っているのをご存じですか？ 今回の話の締めくくりに紹介をしておきます。

今回は、冒頭で述べた「安全文化のものさし」の「Aありがとう」を、集団の中に根付かせる話をします。



こだま たけし

1971年 住友重機械工業(株)入社。新造船関係などの業務を経て、1997年より横須賀製造所、千葉製造所などで安全衛生業務に従事。2005年より住友重機械工業(株)本社 安全衛生担当部長を歴任後、2014年7月より現職。